



9 月号

平成6年9月1日
発行/編集
岡崎市教育委員会

初めてお友達と手をつないだ時
心がふわっとあたたかくなった

初めてお母さんと離れた時
心がきゅんといたくなった

初めてお友達とけんかした時
心がぎゅっとつぶれそうだった

今、あなたたちの感じるすべてが
これからの人生を支えていく

かけがえのない大きな力

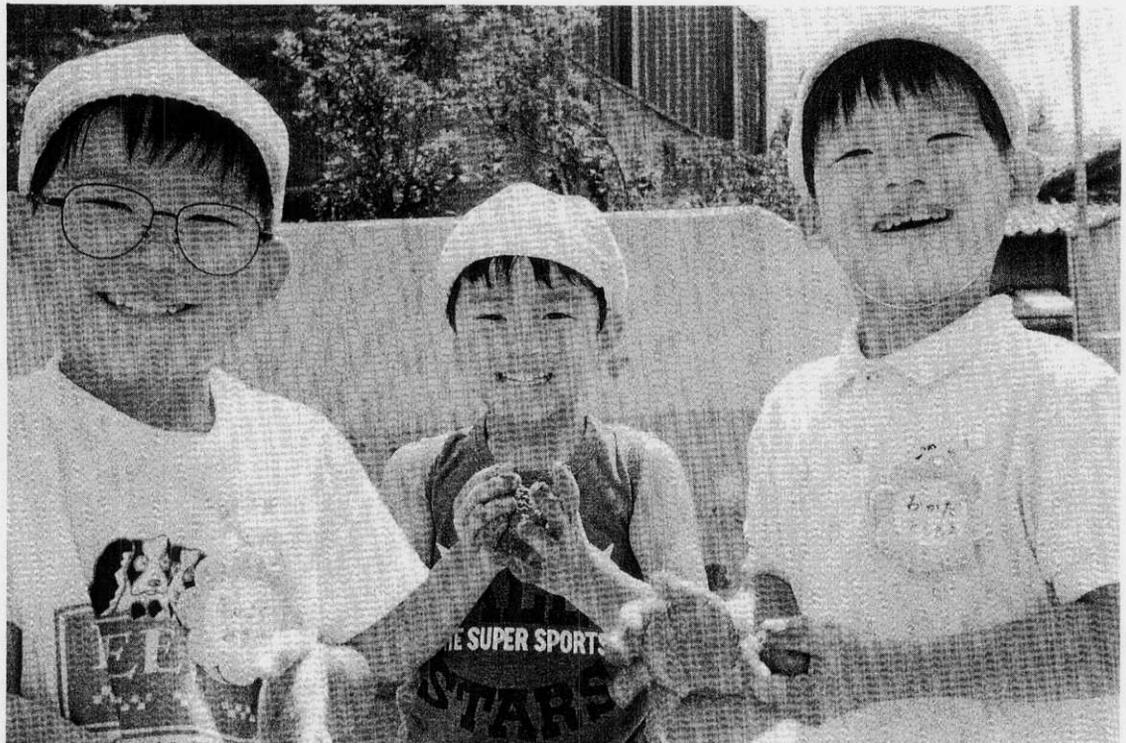
思い切りぶつけてごらん

腕一杯に広げて

まるごと受け止めてあげる

先生は幼稚園のお母さん

〈感じる心〉



(だんごできたよー 梅園幼稚園)

私は、小学校から大学まで、体育の先生や指導者には「いじめられた」と思っている。「高橋はだめだなあ。」「運動神経が鈍いなあ。」「劣るなあ。」というようなことを何度言われたことか。すっかり体育嫌い、運動嫌いになった。運動会とか、体育大会とかいうものは本当に苦痛だった。雨が降って流れるとほっとしたもので



ある。しかし、スポーツは好きだった。中学時代親しい仲間たちと草野球に興じたり、軟式テニスに夢中になったりした。私はへたであったが、それを受け入れ、許してくれる友達との遊びは楽しかった。

大人になってから、スキー、スケート、剣道、硬式テニスに挑戦したが、ものにならなかった。素質がな

— 教育随想 —

五十歳の私でも
指導者がよいと
泳げるようになる



愛知教育大学 校長
附属養護学校
高橋 丈司

いと痛感したり、激しい劣等感に襲われたりして、初期の段階でやめた。四十九歳がもうじき終わる時、思いついて、岡崎市内のTスイミングスクールに通い出した。申込書の希望欄にクロールが二十五米泳げること及び息つきを教えて欲しいと書いた。そして第一日目にさっそく息つきを教えてもらえた。もちろん覚え

ることは出来なかったがうれしかった。「教えて欲しいことを教えてくれる」。これはとても印象がよかった。クロールの練習は、まずビート板を持って、顔をあげてのキック。続いてビート板を持って、顔を入れて、一、二、三、四の四で顔をあげて呼吸するキック。さらに面かぶりキック。このようにキックの練習だけで

も、基本練習がいくつもあった。しかも、はじめは少しの距離を進むというものであった。即ち、教育心理学でいう「スモールステップの原理」に沿った指導であった。私は、これについていけると思った。

もうひとつ、私の学校時代の体育の先生と異なることは、「自尊心を尊重してくれる」ことであった。どこかいいところを見つけてほめて、それから直すべきところをいう。これは、傷つかずに素直に聞くことができる。指導の基本に、相手の人格を尊重するという心があつた。練習日が楽しみにあつた。

五十歳一か月で、私はクロールが泳げるようになった。幾人ものインストラクターにお世話になつた。つまり、まづいっていることは何かをすばやく見抜いて、その障害を克服するため、献身的に指導してくれる指導者に恵まれたのは幸いであつた。

岡崎市民水泳大会に二度出場した。二度金メダルと優勝の賞状をいただいた。私のクラスの参加者は、私一人だつたけれど。

最後に、市民の楽しみと健康のために、岡崎市にも市営の温水プールがあつていいと思つている。

(たかはし たけし)



感謝の心

小学校校長長

藤井 洋典

豊かさの中で、何不自由なく生活をしていると、「感謝の心」を忘れがちである。

学校や家庭、地域社会などで、感謝の心を忘れた光景に出会うことがしばしばある。

ある日曜日、M駅からバスに乗つた。高校生くらいの若い男性が、私と同じバスに乗ろうと走つて来た。そのとき、バスの運転士が、

「財布を落としたよ。」

と、若い男性に向かつて言つた。彼は、一瞬きよんとしていたが、やがて気がついて財布を拾いに行き、バスに乗つた。私は、彼が運転士に当然お礼を言うと思つていたが、何も言わなかつた。それを見て暗い気持ちになつた。

ところが数日後、若い女性の一団

ふるさとシリーズ

この人に聞く



浮世絵収集家

山本 親氏

「日本人であるのに、日本の美術を代表する浮世絵について何もコメントできず、非常にショックでした。それで、本格的に勉強しようと思いました。」

浮世絵収集のきっかけをこう語る山本氏。それは十年前、研修先のアメリカで浮世絵について質問されたときのことだそうである。

氏は、コレクションの中から一枚一枚浮世絵を見せながら説明してくれた。浮世絵を扱う手は、まるで母親が子供を抱くときのようにであった。

「浮世絵と聞けば、歌麿の美人画や広重の東海道五十三次が思い浮かびますが、それらが十三、四回も摺られて出来上がる多色摺りの木版画であることはあまり知られていません。ましてや、浮世絵師が描くのは墨絵だけで、版木を彫る彫り師や染料をのせて摺る摺り師の存在などほとんど知られていないでしょうね。」

氏の熱弁に私たちは知らず知らずのうちに浮世絵から目が離せなくなっていた。

「木版画だけでもその線があまりにもシャープ。年賀状の木版画のイメージとは全く違う別世界の非常に研ぎ澄まされた線が仕上がっています。」

それらの浮世絵は言葉どおりで、私たちは魅入るばかりであった。

氏は、浮世絵を収集するようになって、自分の生き方が変わったと言われる。

「私は大学で体育を教えていますので、付き合う人は教員のみ。だから『俺が教えるんだ』という立場になりやすいんです。ところが、浮世絵に関してはこちらが教わるのがいっぱい。浮世絵を始めてからは、お寿司屋さん、魚屋さん

などいろいろな職種の人たちと付き合うようになり、自分自身の視野が広がりました。」

浮世絵の中には、ヨーロッパ印象派の画家たちが驚嘆した構図、色使い、現代にも通用する洗練されたデザインなどいろいろなものが隠されている。

「日本を代表する芸術なのだから、日本人の常識として浮世絵について知ってほしいと思います。」

と語る声に力がこもる。浮世絵に魅せられた氏の熱い思いを感じた。

氏 名 やまもと ちかし
生年月日 昭和三七年六月廿日
住 所 岡崎市竜美南



とバスに乗り合わせた。車中は、彼女たちの明るい話し声で喧しいほどであった。もう少し静かにできないものかと苦々しく思いながら、彼女たちの話を聞いていた。どうやら彼女たちは、看護婦になるための勉強をしているらしい。

やがて、とあるバス停に着くと、彼女たちは降り始めた。そのとき、彼女たちは、乗車賃を払いながら、運転士に対して、

「ありがとうございます。」

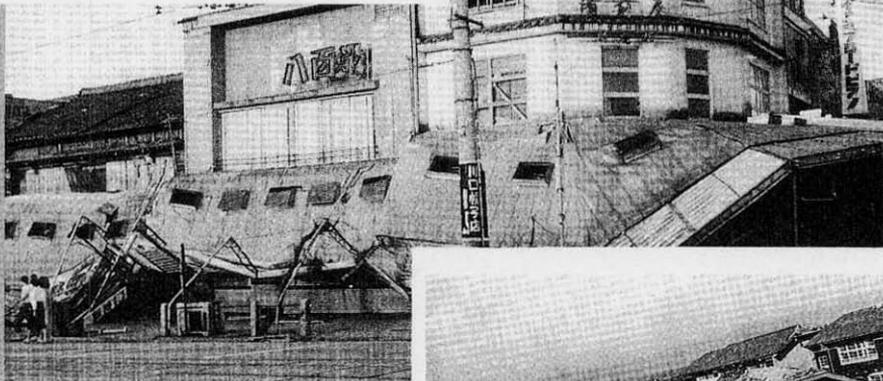
と言っては降りて行くではないか。

喧しい話し声に不快な思いをしていたことが一気に吹き飛んでしまった。さすが看護婦を目指すだけのことはあると、彼女たちを見直した。

このすがすがしい光景から私は今の若い人たちの中にも感謝の心が育っているということを知った。

私たちは、大自然の限らない恵みや周囲の人や物のお陰で生活ができることに、感謝の気持ちを持つことは当然である。しかし、豊かさゆえに感謝の気持ちを忘れがちである。感謝の心を育てることで、物を大切にしようとする気持ちや謙虚な心も生まれる。このことを肝に命じ、素直に感謝の気持ちを表現できる子供を育てていきたいものである。

防災の日を思う



▲ 伊勢湾台風（S34）の猛威・康生通り



▲ 伊勢湾台風により大被害をうけた甲山中



▲ 矢作駅西付近火災（H5）

災害は忘れた頃に
やってくる

災害に対して、人はみな暗い経験を持っている。毎年日本の各地を襲う台風の強風と豪雨、一瞬のうちに人命を飲み込む大規模な土砂崩れ、いつ起こるか分からない地震の恐怖など、自然の猛威は、言葉では言い尽くすことができない。火事のような人災も、日々新聞紙上をにぎわしている。ここに掲載した記録写真を見て、心を痛める人も多いであろう。しかし、これも事実の一部である。



▲ 小丸町山火事跡（H5）



▲ 総合防災訓練



▲ 避難訓練



▲ 降下訓練



▲ 避難訓練

我々はこのような災害に対して、被害を最小限にとどめるために、防災という観点からさまざまな活動をしている。防災の気持ちをもち続けるために、地区の消防団はもちろん、企業や学校なども定期的に訓練を重ねている。今日、九月一日は「防災の日」である。



▲ 豪雨による浸水 (S36) 板屋町



▲ 台風による浸水 (H3) 岡崎北高校西

ふれあい

心に残る友情の火

矢作北中学校

林 幸康

「入場！」

夜のどぼりの降りた茶臼山に、S君の力強い声が響き、キャンプファイヤーが始まった。

この二年山の学習は、自分たちの山を、を合言葉に、企画委員十八名が中心となり、テーマや日程など、茶臼山でのほとんどの活動計画を生徒たちが立案していった。中でも、企画運営が初めてとなるキャンプファイヤーへの意欲は素晴らしいものがあつた。

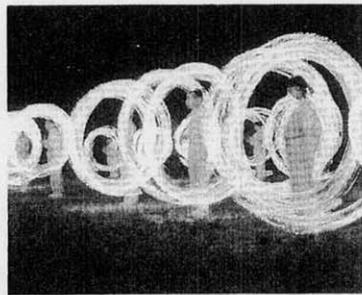
合図とともに順調に入場が進む。ところが、入場が終わりにかけたとき、突然中央の井桁に大きな炎が上がった。それと同時に起こるざわめき。誰かがマジックファイヤーの紐を引っかけたのである。先

程までの厳肅さはなくなっていた。中央では、S君が立ち尽くしている。ざわめきは消えない。何とかしなければ、そう思った瞬間、

「友情の火が僕らを迎えてくれました。」

S君の声が響き渡った。とつさに機転を利かせたS君のこの言葉に、三五五名が静まり返った。何が起ころうともこのファイヤーを友との一生の思い出に残るものにしなればというS君の熱い思いが伝わったのであろう。

中央の井桁ではますます炎が燃え上がっていた。これこそまさに「友情の火」だと思つた。



師弟同行

心の師

六ツ美中部小学校教頭

野本 欽也

十九年前のことでした。西枇杷島小から本宿小への転勤が決まり、ゆつくりとした時間の中に、突然、先生からの電話でした。「ソフト部の顧問を頼む。についてはユニフォームのデザインを四月一日までに考えておくように。」とのことでした。

それは、いつの間にか気ままな教師生活が染み付いていた自分にとって、面食らう出来事でした。それまでは与えられたことをなんとかこなした。その日が終わればそれでよしといった生活でした。どちらかと言えば趣味の世界で生きているような自分にとって、先生との出会いは衝撃的でした。



それからは、先生が自ら仕事を追い求め、率先して動かれる生きざまを、自分なりに受け止めてきました。そして、それはとりもなおさず、子供に対して精一杯尽くすことでもありました。

出会い以来、歩みは遅いけれど、変わろうとする私を先生は暖かく見守ってくださいました。時には雷が落ちましたが、総てが慈愛の心でした。今の自分があるのは先生のお陰です。先生いつまでもお元気で。

唯一心

元城北中学校長

藤井 清

思えば、私はお仕えた校長先生に恵まれていた。

宮崎中時代の平松先生、葵中時代の桑子先生、市教委・城北中時代の鈴木先生など、

小生意気な田舎者をしつかり鍛えて下さった方々である。

この私の勤務校に貴君が赴任して来たり、私が赴任して行ったりして、七年間、随分迷惑をかけてしまった。

私の退職後も、貴君は転任内示の都度、意見を求める電話をくれたが、「喜んでお受けしなさい」とだけ言った。

人事は、人がするもので、受ける者が恣意を差し挟むものではない。人が認めてくれたらその任務に邁進して、自ら答を出せばよいと思うからである。

たまたま学区の山本禎夫校長さんと話す中で、「野本君は責任感の強い人で、どんな多忙な時や場でも職員や役職を助けてくれました。」と激賞された。退職後、こんなに嬉しい言葉を聞くのは、初めてだった。

最後に、貴君の前途に「唯一心」という言葉を贈りたい。子供に接する職業柄、体調と情緒の自己管理に充分配慮され、大成されることを念じて筆を措きます。

平成6年度岡崎市小学校体育大会

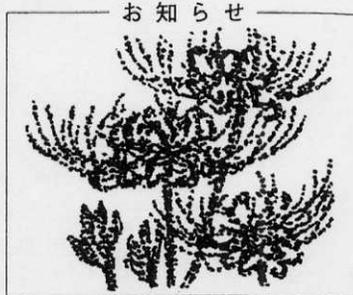
種 目	性	優 勝	2 位	3 位	位
ソフトボール	男	男 川	連 尺	常 附	美 合
	女	連 尺	矢 南	附 属	細 川
バレーボール	男	矢 北	六ツ美南	北 野	山 中
	女	六ツ美北	上 地	矢 北	梅 園
バスケットボール	男	矢 北	六ツ美北	六 名	北 野
	女	竜 美	丘 地	六ツ美南	大 門
サッカー	男	上 地	羽 根	岡 崎	梅 園

第47回岡崎市中学校市長杯総合体育大会

種 目	性	優 勝	2 位	3 位	位
陸上競技	男	南	六ツ美北	常 磐	
	女	矢 北	六ツ美北	竜 海	
バスケットボール	男	城 北	葵 作	竜 南	新香山
	女	美 川	矢 作	矢 北	東 海
バレーボール	男	東 海	竜 南	幸田北部	六ツ美北
	女	矢 北	竜 南	六ツ美北	北
ソフトテニス	男	城 北	矢 作	南 美	六ツ美北
	女	城 北	矢 作	矢 北	額 田
卓球	男	幸田南部	幸田北部	幸田南部	矢 北
	女	幸田南部	矢 北	岩 津	常 磐
体操	男	竜 海	甲 山		
	女	矢 北	南	竜 海	
新体操	男	東 海	竜 海		
	女	矢 作	常 磐		
剣道	男	矢 北	常 磐	幸 田	葵
	女	福 岡	額 田	幸田南部	幸 田
ハンドボール	男	竜 南	葵 作	城 北	美 川
	女	竜 南	葵 作	美 川	六ツ美北
軟式野球	男	岩 津	幸 田	東 海	甲 山
	女	城 北	幸 田	幸田北部	矢 北
ソフトボール	男	竜 海	矢 北	北	竜 南
	女	甲 山	南	矢 作	新香山

市長杯総合成績

	優 勝	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
男子	竜 南	矢 北	竜 海	葵 作	六ツ美北	矢 作
女子	矢 北	矢 作	竜 南	東 海	六ツ美北	竜 海
男女総合	矢 北	竜 南	矢 作	竜 海	六ツ美北	東 海



お知らせ

◆西三河中学校選手権大会

- 優勝 陸上競技男子 南
- 陸上競技男子 矢作北
- バスケットボール男子 城北

個人優勝

- バレーボール女子 城北
- ソフトテニス男子 矢作北

団体優勝

- ソフトテニス男子 矢作北

団体優勝

- 陸上競技女子総合 矢作北
- 相撲 東海
- バスケットボール男子 東海
- 陸上男子共通二百M 鈴木 智美(竜南)
- 陸上女子共通二百M 鈴木 智美(竜南)
- 陸上男子共通砲丸投 荒井 靖浩(六美北)
- 陸上女子共通八百M 木村 豊美(矢作北)
- 陸上男子共通走高跳 杉江 浩一(常磐)
- 陸上男子二年百M 伊藤 篤史(竜南)
- 陸上男子一年千五百M 富田 好志(竜海)



竜美丘小

子供たちの願いによって、昭和五十七年、屋形のそりも凛々しい相撲場が建った。十月の秋場所では、クラスの名誉を担って、ちびっ子横綱・大関たちが激突する。



泉



朝日町

岡崎市郷土館

に特徴がある。

大正二年に額田郡公会堂として建設され、大正五年には市制施行により岡崎市中央公会堂となった。昭和三十六年には勤労会館（現せきれいホール）建設に伴って物産陳列所を現在地に移築した。市民会館オープンに伴い、昭和四十四年四月には、岡崎市郷土館として開館し、現在に至っている。

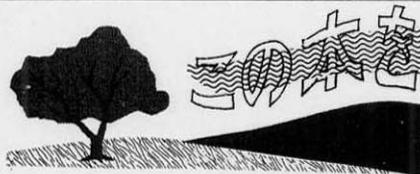
市内でも数少ない大正期の建築物であり、室内はルネッサンス調の装飾も見受けられる。外観では玄関が半円形の切妻となっており、洋風味を出す工夫が随所にある。

岡崎市郷土館には、民族・歴史・考古の各資料が所収しと展示されているが、建物自体が貴重な資料であるところを向けたものである。

・表紙写真
・表紙詩
・カット

梅園幼稚園
梅園幼稚園
矢作中

横山 恵美子
大竹 菜穂子
前野 奈津子



- | | |
|------------|---------------|
| *日本語の起源 新版 | 大野 晋 |
| 岩波書店 | ¥ 650 |
| *母の写真 | 日本エッセイスト・クラブ編 |
| 文藝春秋社 | ¥1400 |
| *人生のうた | 佐高 信 |
| 講談社 | ¥1500 |
| *読書人の悦楽 | 谷沢 永一 |
| PHP研究所 | ¥1500 |

※二十世紀とは何であったか 小林 道憲
日本放送出版協会 ¥ 830

21世紀を目指し、諸改革が行われている。物質文明の恩恵に浴しているのみでは、激動のなかの問題や真実が見えてこない。温故知新。21世紀の課題は、20世紀を回顧して推測できる。

20世紀とは何であったのか。哲学・文明論専攻の著者が「文化・精神的な面」から20世紀の光と陰、正と負をとらえ、鋭く「文明論的総括」をしている。

記述は、具体的・論理的で明快。精神面を強調する考えに共感させられる。

大粒の涙がユニフォームを濡らして、君たちの夏が終わった。

「試練を重ねよ」とばかりに、進路に悩む時が来た。懸命だった君を知っている。だから敢然と立ち向かって欲しい。灼熱の太陽に代わって、秋の日差しが、君の背中を押している。

シ

オ

ス

ア

安全は幸福の基本である。「我が身の安全は自分で守れ」とは、よく言われることである。防災の日だけでなく、常日頃からの心構え一つで、危険を回避できることが随分あるのではないだろうか。たとえ、急に天災が起ったとしても……。

収集家を超えて、今や浮世絵第一人者の山本氏。二時間にわたる氏の熱弁に編集子も啞然。「いくらくらいですか」の愚問に、「値段など、どうでもいいことです」と、にらまれて意気消沈。それにしても、浮世絵に魅せられた至福の時間にただ感謝。

素通りしてしまいうような風景や建物も、よく見ると心を動かされる時がある。市内には美しい風景も、価値ある建物もたくさんある。大正期の建築物である郷土館にはぜひ訪れたい。立ち並ぶ新しい建物の中にひっそりと建つ姿に懐かしさを感じるだろう。